

令和 5 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況

の点検及び評価結果に関する報告書

(令和 4 年度対象)

令和 5 年 12 月

石 岡 市 教 育 委 員 会

目 次

1. 点検・評価制度の経緯・目的

- (1) 経緯 2
- (2) 目的 2

2. 点検・評価の概要

- (1) 点検・評価の対象 3
- (2) 点検・評価の方法 3
- (3) 学識経験者の知見の活用 3

3. 各事業の取組実績に対する点検・評価

- (1) 事業名一覧 5
- (2) 歴史・文化財の保存・活用 6
- (3) 魅力の活用・創出 8
- (4) スポーツを通じた関係人口の拡大 9
- (5) 子育て家庭支援の充実 10
- (6) 創意ある学校教育の推進 12
- (7) 地域と連携した教育の推進 15
- (8) 学校教育環境の整備・充実 19
- (9) 生涯学習の推進 21
- (10) スポーツの振興 23
- (11) 文化・芸術の推進 24

4. 令和4年度教育委員会の点検評価における点検・評価委員の

- 意見に対する令和5年度の取組状況 26

5. 参考資料 34

1. 点検・評価制度の経緯・目的

(1) 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月から施行されました。

これにより、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正目的である教育委員会の責任体制の明確化の一つとして、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、学校教育、社会教育等に関する事務を執行する行政機関として、全ての都道府県及び市町村に設置されている行政委員会です。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、複数の教育委員による合議により指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

事務の点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、事前に教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に点検・評価を実施することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

石岡市教育委員会では、主要な施策や事務事業の取組状況について点検・評価を行い、課題の取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進及び市民の皆様への説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進することを目的として、その結果を報告書としてまとめました。

◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）◆

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の概要

(1) 点検・評価の対象

《『第1期基本計画』で掲げた政策目標を達成するための

基本施策・主要事業を中心に点検・評価》

令和13年度までの長期的な将来構想である『基本構想』における将来像「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」の実現に向け、市の抱える課題や多様な市民ニーズに的確に対応するため、令和4年度から令和5年度までの2年間の行動計画として、『第1期基本計画』が策定されています。

そこで掲げた9つの政策目標中、教育委員会では18の基本施策が該当いたします。

今回、点検・評価をする事務事業は、教育委員会各課（館）が所管している令和4年度事業で掲げた主要事業及び、前回の点検評価で意見を付された事業について実施いたしました。

なお、教育委員会事務局組織機構については、別添34ページ『参考資料①』のとおりです。

(2) 点検・評価の方法

《事務事業分析シートを活用しての点検・評価》

点検・評価の方法については、各教育委員会の創意工夫により行うものとされています。

今回、点検・評価をするに当たり、石岡市で作成している事務事業評価シートを基に点検・評価表を作成し、担当課による今後の課題・問題点、今後の方向性についての自己点検・評価を行いました。

その後、2名の石岡市教育事務点検・評価委員（教育に関し学識を有する方として教育委員会から委嘱）から、自己点検・評価の結果について、ご意見・要望等をいただきました。

(3) 学識経験者の知見の活用

《石岡市教育事務点検・評価委員》

教育に関し学識経験を有する者（以下「点検・評価委員」という。）の知見の活用については、点検・評価の客観性を確保するためのものです。

なお、石岡市教育事務点検・評価委員要綱については、別添35ページ『参考資料②』のとおりです。

【石岡市教育事務点検・評価委員】

氏 名	備 考
濱 田 裕 信 氏	元学校長
関 川 恵 一 氏	元市 P T A 連絡協議会会長

私たちは、石岡市教育委員会の活動について、教育委員会が自ら行った「点検及び評価」を評価するに当たり、事前に関係資料に基づく情報収集を行いました。

その上で、各事業担当課職員からヒアリング等を行い、石岡市における教育行政の現状や課題の把握、今後の対応方針や方向性等を確認し、また、前回の各事業に対する意見への取組状況などの説明を受け、対象となった事業に対し、それぞれ意見を述べました。

ますます財政的制約が厳しさを増す中ではありますが、引き続き各事業の見直しを行うとともに、点検及び評価や本意見等を精査し、必要に応じた予算の確保・団体等への支援及び予算額の適正な配分に努めてください。

この事業評価が、適正かつ効果的な教育施策に反映されるよう、さらなる教育行政の推進を期待します。

令和 5 年 12 月

石岡市教育事務点検・評価委員 濱 田 裕 信

同 関 川 恵 一

3. 各事業の取組実績に対する点検・評価

令和5年度点検・評価事業名一覧（令和4年度実施事業）

P	第1期基本計画 基本施策名	事業名	担当課
6	歴史・文化財の保存・活用	発掘調査事業	文化振興課
7	歴史・文化財の保存・活用	文化財保護保存及び普及経費	文化振興課
8	魅力の活用・創出	筑波山地域ジオパーク推進事業	文化振興課
9	スポーツを通じた関係人口の拡大	スポーツイベント事業	スポーツ振興課
10	子育て家庭支援の充実	放課後児童健全育成事業	生涯学習課
11	子育て家庭支援の充実	家庭教育推進事業	生涯学習課
12	創意ある学校教育の推進	学校いきいきプラン推進事業	教育総務課
13	創意ある学校教育の推進	語学指導事業	教育総務課 指導室
14	創意ある学校教育の推進	学校給食調理事業	学校給食課
15	地域と連携した教育の推進	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課
16	地域と連携した教育の推進	青少年相談員体制推進事業	生涯学習課
17	地域と連携した教育の推進	青少年を育てる石岡市民の会等による青少年育成活動支援事業	生涯学習課
18	地域と連携した教育の推進	子ども会育成事業	生涯学習課
19	学校教育環境の整備・充実	小中学校コンピュータシステム整備事業	教育総務課 学校再編推進室
20	学校教育環境の整備・充実	学校統合再編事業	教育総務課 学校再編推進室
21	生涯学習の推進	図書館ブックスタート事業	生涯学習課 中央図書館
22	生涯学習の推進	公民館の事業	中央公民館
23	スポーツの振興	スポーツ振興事業	スポーツ振興課
24	文化・芸術の推進	美術展・芸術祭・文化祭等の開催事業	文化振興課
25	文化・芸術の推進	文化・芸術関係団体への支援事業	文化振興課

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	発掘調査事業	担当課	文化振興課		
第 1 期基本計画基本施策名	歴史・文化財の保存・活用				
事業の目的・概要	国民共有の財産である埋蔵文化財を保存・保護します。 市内の開発行為地や県が主体となる事業地内の発掘調査を進めます。 茨城廃寺跡や茨城郡家推定地の範囲調査及び瓦塚窯跡の出土遺物の整理作業を進めます。 出土した遺物の保存処理を行います。				
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		8, 415	9, 987	84. 3%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		16, 330			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	開発行為に伴う試掘件数	市内の開発行為に係る試掘調査件数	60件	84件	140. 0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	市内全体の発掘調査箇所数	市内における試掘調査及び発掘調査件数	60件	86件	143. 3%
課題・問題点	開発行為者や土地所有者と協議しながら、調査を進めていく必要があります。 出土した遺物の適正な管理のため、継続して保存処理を進めていく必要があります。				
今後の方向性・担当課の自己評価	埋蔵文化財の保護を念頭に、今後も開発行為者や土地所有者と協議をしながら調査を実施します。 遺跡から発掘された遺物の適正な管理を継続して実施します。				
点検・評価委員の意見	発掘調査箇所数が年々増加している。出土遺物の適正な保存管理及び公開に向けた人員や施設の確保を進めてほしい。				

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	文化財保護保存及び普及経費		担当課	文化振興課	
第 1 期基本計画基本施策名		歴史・文化財の保存・活用			
事業の目的・概要		貴重な文化財の保護・保存のため、歴史・文化財に対する理解と普及啓発を図ります。 文化財保護審議会等を開催します。 指定文化財修理費の補助等による文化財の保存を行います。 国指定史跡等の維持管理を行います。 ふるさと歴史館を活用し市内外の来館者へ当市の魅力を伝えます。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		32, 125	34, 246	93. 8%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		74, 532			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	文化財の指定・登録件数	国・県・市の指定・登録文化財数	145件	145件	100. 0%
	歴史ボランティアの会の会員数	石岡市歴史ボランティアの会の会員数	27人	29人	107. 4%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	ふるさと歴史館の来場者数	市の歴史を紹介するふるさと歴史館の入館者数	1, 500人	1, 705人	113. 7%
課題・問題点		現在の施設では、出土した遺物や寄贈された文化財を適正に保管することは難しい状況です。 文化財の保存・活用を進めるためには、計画的に予算を確保するとともに、専門的な知識を有する職員の配置が必要です。			
今後の方向性・担当課の自己評価		貴重な文化財を後世に伝えるため、施設を含め保存管理に必要な措置を講じます。 国指定史跡の保存活用計画や文化財保存活用地域計画を計画的に策定し、文化財の保護体制の確立と魅力発信に努めていきます。			
点検・評価委員の意見		増え続ける出土遺物の適正な管理や、石岡市の歴史や文化財の魅力発信に向け、統廃合後の学校施設を活用した保管場所や、市外からの来訪者目線での利便性を考えた展示拠点づくりを進めていただきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	筑波山地域ジオパーク推進事業		担当課	文化振興課	
第 1 期基本計画基本施策名		魅力の活用・創出			
事業の目的・概要		筑波山地域ジオパークについて観光・文化・教育等多角的に周知・啓発を行うとともに、ジオサイト環境の保全・整備等により、交流人口の拡大を図ります。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		1, 260	2, 426	51. 9%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		2, 805			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	ジオツアー・ジオ授業実施件数	ジオツアーやジオ授業等関連する事業の実施件数	10件	8件	80. 0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	日本ジオパークの認定維持	筑波山地域ジオパークの認定を維持する。認定された状態を 1 とする。	1	1	100. 0%
課題・問題点		前回再認定時の課題として、学校教育との連携や多様なジオツーリズムのあり方の検討が挙げられていることから、その対応が必要です。			
今後の方向性・担当課の自己評価		再認定に向けて、学校教育との連携を強化し、ふるさと学習等におけるジオパーク授業を増やしていくことで、ジオパークの視点による地域資源の魅力発信と、次世代を担う子どもたちの郷土愛の醸成を図ります。 また、ジオツーリズムについては、広域的な定番ツアーの創出など、構成 6 市や認定ジオガイドが連携した取組を行います。			
点検・評価委員の意見		子どもたちの郷土愛醸成や地域の魅力発信のため、構成 6 市と連携しながら、案内板設置などの環境整備、学校教育との連携強化、ジオツーリズムによる交流人口の拡大を図り、日本ジオパークの再認定に向けて進めてほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	スポーツイベント事業		担当課	スポーツ振興課	
第 1 期基本計画基本施策名	スポーツを通じた関係人口の拡大				
事業の目的・概要	誰もが楽しみながら参加できるようなスポーツイベントを開催することで、体力づくりと運動意欲増進を図ります。				
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		6, 693	6, 993	95. 7%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		17, 090			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡つくばねマラソン	マラソン申込者数	1, 580	1, 058	67. 0%
	スポーツイベント開催事業	スポーツフェスティバル～みんなで楽しくわくわく～	350	249	71. 1%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	スポーツイベント参加者数	スポーツイベント参加者数	1, 930	1, 307	67. 7%
課題・問題点	前回大会は、新型コロナウイルス感染拡大により中止となりましたが、今回は新型コロナが完全に終息時期でもない期間という事もあり、参加者は少なかった。また、今後、バス借上料を初めとした経費が増加しているため他の経費を抑える必要がありますが、参加者の満足度を低下させてしまう恐れがあります。				
今後の方向性・担当課の自己評価	次回から、ハーフマラソンへの移行に向け、関係団体等との協議・連携をしていきます。 スポーツイベントは、ニーズ等を考慮したイベントを引き続き実施していきます。				
点検・評価委員の意見	スポーツの振興に向け、プロチームの選手や指導者をコーチとして招くなど、子どもたちが興味をもって参加できるイベントや、ジオパークや恋瀬川サイクリングロードなど地域資源を活用した新たなスポーツイベントを検討してほしい。				

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	放課後児童健全育成事業		担当課	生涯学習課	
第 1 期基本計画基本施策名		子育て家庭支援の充実			
事業の目的・概要		就労等のため放課後に保護者がいない家庭の児童が、安全・安心に過ごせる居場所を提供するとともに、児童の健全育成を目的に児童クラブを設置・運営しています。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		289, 597	313, 522	92. 4%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		421, 816			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	受入児童数	児童クラブに在籍する児童数（年度末時点）	800	852	106. 5%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	待機児童数	入所希望者で児童クラブに在籍できない児童数	0	0	100. 0%
課題・問題点		支援員の質の向上と多様な保護者ニーズに対応するため、民間事業者に運営を委託し、多彩な研修を行うなど質の高い保育ができるようになりました。就労世帯の増加に伴い入所児童が増加しており保育場所の確保が課題となっています。			
今後の方向性・担当課の自己評価		運営を民間事業者へ委託したことにより、支援員の質の向上や利用者の問題などを迅速に解決できるようになりました。			
点検・評価委員の意見		引き続き保育に対するニーズを把握し、支援員向け研修を重ねること、待機児童ゼロ、保育サービスの向上を維持していただきたい。 配慮を要する特性を持つ児童も在籍していることから、必要に応じ専門的知識を有する人員の配置を検討されたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	家庭教育推進事業		担当課	生涯学習課	
第1期基本計画基本施策名		子育て家庭支援の充実			
事業の目的・概要		全ての教育の出発点として重要となる家庭教育の充実のため、また、複雑化する家庭教育についての問題解決のため、家庭教育力向上推進委員会の設置や訪問型家庭教育、家庭教育学級や子育て学習講座等の各種事業を実施しています。			
事業コスト		令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）
			685	1,705	40.2%
		令和5年度	予算額計（千円）		
			1,792		
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	対応家庭数	家庭教育支援員が対応した家庭数	20	445	2225.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	長期欠席児童生徒数	30日以上小中学校を欠席した児童生徒数（病欠等含む）	84	237	35.4%
課題・問題点		前年度よりは幼小中学校での家庭教育学級の実施は増加（実施回数：156%、参加人数192%）しましたが、依然として感染症の影響を受けました。また、保護者が就労している保育所では、家庭教育学級を開設することが難しい課題があります。			
今後の方向性・担当課の自己評価		就学時健康診断後に個別面談を行い、就学児を持つ保護者を中心に支援をすることができました。今後も、オンラインや動画視聴、家庭教育だよりの作成・配布等保護者の就労に関わらず、悩み・困り事に対応できる家庭教育支援ができるよう創意工夫を図っていきます。			
点検・評価委員の意見		長期欠席児童生徒数が前年度に比べ増加しており、子育てに悩みを抱えている保護者や家庭が増えていると思う。そういった保護者や家庭が孤立することがないように、必要に応じ福祉部門とも連携しながら支援するなど、地域社会、学校及び行政が一体となって家庭教育を推進していただきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	(小学校・中学校) 学校いきいきプラン推進事業		担当課	教育総務課	
第1期基本計画基本施策名		創意ある学校教育の推進			
事業の目的・概要		多様な経歴を有する社会人を講師とした学習活動、校外学習等（社会科見学、福祉活動、地域住民との交流等）の授業を行い、各小中学校の独自性を尊重しながら、児童生徒の生きる力を育成します。 各学校の事業計画に基づき、特色ある事業を展開し、学校の独自性をいかした教育を実施します。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		8,775	15,506	56.6%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		15,125			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	講師謝礼の配当	外国語講師や体験実習講師謝礼として支出	24校	16校	66.7%
	需用費の配当	いきいきプラン事業に要する需用費への支出	23校	23校	100.0%
	使用料及び賃借料の配当	車借り上げ等の賃借料の支出	24校	19校	79.2%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	計画事業件数	各学校で計画・実施した年間事業数	230件	196件	85.2%
課題・問題点		支出できる範囲が限られるため、独自性のある各学校の計画に柔軟に対応できない場合があります。また、恒常化した事業が見られるため、事業内容及び予算配当について精査が必要となっています。			
今後の方向性・担当課の自己評価		各学校の独自性をいかした教育の実施が達成されています。より質の高い事業内容となるよう各校で研究を深めるとともに、経費の削減を踏まえた効率的な事業となるよう学校間の情報共有が必要です。			
点検・評価委員の意見		教育機会の確保や予算の有効活用のため、学校の実態や独自性がいかされた事業内容となるよう、計画策定への指導や助言をしてほしい。 来年度、統合再編により小学校2校の学区が拡大するが、旧学区相互の地域や文化の理解を深める事業に対し積極的に予算配当されたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	語学指導事業		担当課	教育総務課 指導室	
第1期基本計画基本施策名		創意ある学校教育の推進			
事業の目的・概要		中学校における英語教育の改善・充実を図るため市内5中学校でALTによる訪問指導を実施しています。平成21年度から小学校5・6年生を対象に外国語活動が導入されたため小学校においてもALTの訪問指導を開始し、現在は小学校中学年からを対象として実施しています。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		61,631	63,095	97.7%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		66,898			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	英語に興味を持つ児童数の割合（小学校）	英語でもっと会話したいと思う児童数の割合（アンケート：指導室実施）	95	88.1	92.7%
	英会話県大会出場校数	英語プレゼンテーション大会の県大会に進出した学校数	2	1	50.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	学習意欲の向上	いろいろな国の言葉や文化について興味を持つ児童の割合（アンケート：指導室実施）	95	92.6	97.5%
課題・問題点		英語の免許を所持していない小学校教員が、外国語の授業を行うことによる負担は大きい。そのため、ALTと連携・協力し、授業の中での英語の発話や会話を増やすなど、効果的なチームティーチングによる授業を行えるようにしていくことが課題です。			
今後の方向性・担当課の自己評価		小中学校の教員対象に、授業づくりや評価に関する研修を実施してきました。小中学校間の授業方法や学習内容が共通理解されてきています。今後は、小学校で培った児童の英語力が、中学校の授業へとスムーズに接続できるよう、研修会を継続的に行ってまいります。			
点検・評価委員の意見		グローバル化が進む中、児童・生徒の「生きる力」を育む上で、外国語学習は重要な位置づけとなる。授業づくりや評価等の研修会を積み重ね、外国語学習への興味・関心・意欲（動機づけ）の向上に努めていただきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	学校給食調理事業		担当課	学校給食課	
第1期基本計画基本施策名		創意ある学校教育の推進			
事業の目的・概要		市内小中学校の児童・生徒、教職員分の給食を調理・配送し、安全・安心な給食を提供するとともに、生活における食事の大切さを指導します。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		521,858	529,102	98.6%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		530,057			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	食育指導実施回数	給食指導回数	130回	214回	164.6%
	地場産物の活用	第3次健康いばらき21プラン 目標値50%以上（H30～R5年度）	78.0%	71.6%	91.8%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	給食提供回数	食中毒及び調理事故等による 給食停止件数	0件	0件	100.0%
課題・問題点		地場産物・有機野菜の活用は、急激な食材の価格高騰により、必要量の確保が難しい場合があることが課題となります。 食育指導に関しては、栄養教諭4名が中心となり実施しています。学校間の指導量に差が見受けられるので学校関係者と連絡を密にして十分な機会を確保してまいります。			
今後の方向性 ・担当課の自己評価		子どもたちの望ましい食習慣の形成を目指し、食に関する指導の充実に取り組むとともに、地場産物の更なる活用を進め、安心安全な給食の提供に努めます。			
点検・評価委員の 意見		給食の実施に当たり、食中毒や事故等がなかったことは素晴らしいことです。引き続き学校・家庭と連携協力し、事故等の未然防止に努めるとともに、地場産物の活用や食育指導を充実させ、望ましい食習慣の形成、食べ残しの削減につなげていってほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	放課後子ども教室推進事業			担当課	生涯学習課
第 1 期基本計画基本施策名 地域と連携した教育の推進					
事業の目的・概要		地域の方々の参画を得ながら、様々な体験学習・交流活動等を定期的・継続的に提供し、子どもたちの社会性・自主性・創造性を育みます。 また、世代間交流や、地域社会の子どもを育てる教育力の向上を図ります。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		45	110	40.9%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		110			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	実施校数	放課後子ども教室を実施した校数	19	19	100.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	参加児童・幼児数（延べ人数）	放課後子ども教室に参加した延べ人数	3,000	6,202	206.7%
課題・問題点		放課後子ども教室は、主に市内小学校施設を使用して実施しているため、児童数等学校の規模により、活動場所の確保や参加に伴う下校班の人数減が懸念される等の課題があります。			
今後の方向性・担当課の自己評価		民間活力の導入、学校の理解、地域の協力により、大きな怪我や事故がなく、多様な体験活動・交流学习等を安全・安心に実施することができました。今後も学校や地域との連携を図り、活動場所の拡充や下校時の地域による見守りの協力など支援体制の強化を目指します。			
点検・評価委員の意見		多彩な事業内容の企画により、多くの児童が放課後子ども教室に参加し、異年齢集団での活動を通じ、社会性を培うことにつながっている。引き続き各校での課題を地域協力者、学校、委託業者と連絡調整し、児童の安全を確保した上で事業の充実を図ってほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	青少年相談員体制推進事業		担当課	生涯学習課	
第1期基本計画基本施策名		地域と連携した教育の推進			
事業の目的・概要		青少年の非行を未然に防止し、健全な青少年を育成するために、青少年相談員による街頭活動及び青少年相談員協議会の各種活動を補助支援します。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		5,972	7,239	82.5%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		7,332			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	街頭巡回指導活動	定期・早朝・日没・一斉・祭礼時の巡回指導回数	70	68	97.1%
	広報紙発行	「青少年相談員だより」の発行回数	2	2	100.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	声かけ回数	青少年相談員が街頭巡回指導活動の際に青少年に声をかけた回数	3,900	2,737	70.2%
課題・問題点	地域の人口減少に伴う青少年相談員の成り手不足により高齢化が進んでおり、青少年の健全育成と非行防止を図るうえで、新たな担い手の確保について課題があります。				
今後の方向性・担当課の自己評価	青少年相談員の街頭巡回指導活動延べ参加人数（482人）は前年度より83人増えましたが、目標値を変更したことにより達成度は70.2%に留まりました。今後も巡回指導時の青少年への関わり（声かけ等）を積極的に行い、青少年の健全育成、非行防止を推進していきます。				
点検・評価委員の意見	青少年の非行防止、健全育成になくてはならない活動を担っている青少年相談員の皆様には感謝いたします。効果的な活動の維持継続のため、相談員の定数確保、子どもたちの活動実態の把握、活動内容・日程の調整に努めていただきたい。				

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	青少年を育てる石岡市民の会等による青少年育成活動支援事業		担当課	生涯学習課	
第1期基本計画基本施策名		地域と連携した教育の推進			
事業の目的・概要		青少年が心身ともに健やかに成長できるよう、青少年を育てる石岡市民の会等による各種活動を補助支援します。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		5,972	7,239	82.5%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		7,332			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	「少年の主張」県大会応募数	市内中学校からの「少年の主張」県大会への応募数	10	9	90.0%
	家庭の日絵画・ポスターコンクール	絵画ポスターコンクールへの市内小中学生の応募者数	470	241	51.3%
	視察研修参加者数	市民の会主催の視察研修への参加者数	25	10	40.0%
	茨城県推進大会参加者	青少年健全育成茨城県推進大会への参加者	25	15	60.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	青少年を育てる石岡市民の会会員数	青少年を育てる石岡市民の会に加入している戸数	11,500	11,305	98.3%
課題・問題点		小学校区ごとに19支部が組織され地域に根差して活動していますが、依然として感染症の影響を受け、事業の変更や中止が余儀なくされております。また、地域の人口減少に伴い、会員が高齢化し、会員数が減少している課題があります。			
今後の方向性・担当課の自己評価		3年振りに視察研修（土浦地区研修会）や県推進大会に参加することができました。また、「会報」の全戸配布や小中高等学校での合同あいさつ運動等の事業により、広く市民に青少年健全育成活動への周知・理解を図り、会員数の確保及び支援体制の強化を目指します。			
点検・評価委員の意見		次代の社会を担う子どもたちのことを第一に考え、学校や地域に根差した活動が支部ごとに実施できるよう、意見交換、情報共有できる場を継続して設けていっていただきたい。 来年度、学校統合再編に関連する支部組織や事業計画づくりを支援していっていただきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	子ども会育成事業	担当課	生涯学習課		
第 1 期基本計画基本施策名		地域と連携した教育の推進			
事業の目的・概要	学年を超えた連帯感と地域の教育力の向上を図るため、石岡市子ども会育成連合会の各種事業を補助支援します。				
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		51	471	10.8%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		112			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	主催事業数	石岡市子ども会育成連合会が主催する事業数	4	1	25.0%
	子どもフェスティバル	参加者数	16,000	0	0.0%
	スキー研修会	参加者数	60	0	0.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	小学生の単位子ども会加入数	市内小学生が単位子ども会に加入している割合	70	42.1	60.1%
課題・問題点	子ども会を取り巻く環境の変化から、石岡市子ども会育成連合会（石子連）に加入する単位子ども会及び児童が年々減少し、協議の上、石子連を令和 4 年度末で解散しました。石子連がない中、地域の子ども会を支援していく必要があります。				
今後の方向性・担当課の自己評価	年々子ども会加入児童数は減少しておりますが、児童の健やかな成長に大きな役割を果たしている子ども会事業について、地区の子ども会は存続しているため引き続き支援を行っていきます。				
点検・評価委員の意見	石岡市子ども会育成連合会が解散し、子ども会加入児童数も減少傾向の中ではあるが、今後も存続する単位子ども会の会員児童の確保や事業実施に対する支援を継続して行っていただきたい。				

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	小中学校コンピュータシステム整備事業		担当課	教育総務課 学校再編推進室	
第1期基本計画基本施策名		学校教育環境の整備・充実			
事業の目的・概要		市内小中学校に教職員が使用できる校務用コンピュータをリース方式により整備し、教職員の事務の効率化を図ります。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		31,155	31,155	100.0%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		31,155			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	小中学校校務用コンピュータ整備	教職員が使用するコンピュータの整備事業	24	24	100.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	小中学校校務用コンピュータ整備	教職員が使用するコンピュータの整備事業	24	24	100.0%
課題・問題点		校務用パソコンを教職員1人1台整備し、事務の効率化は図られています。また、校務支援システムを導入することにより成績処理等の業務も電子化されています。			
今後の方向性・担当課の自己評価		次期更新の際に各学校に設置しているサーバーの集約とセキュリティの強化を検討します。また、ネットワークの無線化など利便性の向上を図るための見直しを検討します。			
点検・評価委員の意見		校務用パソコンや統合型校務支援システムの導入により業務の効率化、教職員の負担軽減が図られている。それらの更新に当たっては、取り扱う教職員の意見を踏まえ、共同調達構成市町村と協議し、更なる利便性の向上に努めてほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	学校統合再編事業		担当課	教育総務課 学校再編推進室	
第 1 期基本計画基本施策名		学校教育環境の整備・充実			
事業の目的・概要		児童生徒数の減少に伴う小規模学校を解消するため、石岡市立小中学校統合再編計画に基づき、学校の統合再編に向けた説明会等を実施します。また、統合に向けて南小学校の長寿命化改良工事実施設計及び府中小学校の耐力度調査を実施します。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		195, 386	588, 219	33. 2%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		1, 190, 349			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	統合検討委員会	統合に向けた検討委員会開催数	10回	10回	100. 0%
	統合に係る専門部会	検討委員会下部組織の専門部会開催数	6回	6回	100. 0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	小中学校統合再編	小学校 5 校 中学校 3 校 小中一貫校 2 校	10校	24校	41. 7%
課題・問題点		統合再編計画の 4 つの枠組みのうち、高浜・三村・関川・南、北・府中の枠組みについては、令和 6 年 4 月に向けて進んでいますが、吉生・葦穂・柿岡、瓦会・恋瀬の枠組みについては、1 回での統合を求める声が多く、進展していない状況です。			
今後の方向性・担当課の自己評価		R 4 南小長寿命化改良事業389, 394千円を通次繰越し、グラウンド整備事業を残し令和 5 年度で校舎、屋内運動場、バス回転場の整備事業を完成する見込みとしています。進展していない統合については、計画の見直しを視野に、審議会を開催し、新たな方向性を模索します。			
点検・評価委員の意見		学校の統合再編に当たっては、児童生徒への教育効果・望ましい成長を第一に考え、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、スピード感をもって進めてほしい。 来年度廃校予定の 4 校を含む学校施設について、庁内又は民間での利活用についても同時に検討して行ってほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	図書館ブックスタート事業		担当課	生涯学習課 中央図書館	
第 1 期基本計画基本施策名		生涯学習の推進			
事業の目的・概要		乳児健診の際に保護者も含めて読み聞かせを行ったり、図書館で選定した絵本等を贈呈することで、読書に親しむ機会を創出し、子どもの読書環境の整備を推進します。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		288	999	28.8%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		996			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡市 ブックスタート	ブックスタート実施回数	12	12	100.0%
	ブックスタート ボランティア	ブックスタートボランティア登録人数	30	27	90.0%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	ブックスタート 参加人数	ブックスタート	404	358	88.6%
課題・問題点		・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮した事業の在り方 ・赤ちゃんや保護者に負担とならない事業の実施方法 ・読み聞かせボランティアの確保			
今後の方向性 ・担当課の自己評価		昨年度は、新型コロナを考慮して読み聞かせを中止し、保健センターの4か月健診の際にブックスタートパックの配布のみを実施しました。 本来はボランティアによる読み聞かせを実施し、赤ちゃんと保護者が絵本に触れ合う機会を創出することが重要であるため、状況に応じて読み聞かせを再開したいと考えています。			
点検・評価委員の意見		令和4年度はブックスタートパックの配布のみとなったが、今年度は、4か月健診時に配布、1歳児相談時に読み聞かせを実施し、保護者や赤ちゃんの負担に配慮しながら事業が実施できている。引き続きこの事業を通じ、読書の習慣づけ、図書館利用の促進につなげていきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	公民館の事業		担当課	中央公民館	
第 1 期基本計画基本施策名		生涯学習の推進			
事業の目的・概要		各種講座・学級等の開催による学習機会を提供するとともに、各種団体の公民館使用による支援を行います。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		24, 517	27, 629	88. 7%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		27, 971			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	講座の開催	公民館講座の開催数	20	22	110. 0%
	公民館まっりの開催	公民館まっりの来館者数	1, 100	420	38. 2%
	公民館利用者数	各種団体の公民館利用の促進	20, 000	17, 462	87. 3%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	講座の開催	公民館講座の参加者数	1, 000	268	26. 8%
課題・問題点		生きがいのある「人生」を送るための公民館活動の促進を図る必要があり、そのためにニーズにあった講座の開催等により，地域に根ざした活動，特性をいかした公民館活動が望まれています。			
今後の方向性・担当課の自己評価		ニーズにあった各種講座，学級等の開催による学習機会の提供・各種団体の公民館使用による支援・公民館の環境整備、維持管理等を実施します。また，地域における生涯学習の推進を図るとともに，公民館の向上発展に努めます。			
点検・評価委員の意見		公民館が地域交流の拠点となるよう、講座の実施に当たっては、多様化するニーズを掘り起こし、若い世代も興味をもち参加したくなる内容の講座を開設するとともに、講座のインターネット申込、フリーW i - F i 等、時代のニーズに対応した環境の整備を進めてほしい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	スポーツ振興事業		担当課	スポーツ振興課	
第 1 期基本計画基本施策名		スポーツの振興			
事業の目的・概要		初心者向け、少年少女向けのスポーツ教室・ニュースポーツ大会を開催し、スポーツ人口のすそ野拡大を図り、体力づくり及びスポーツの推進を目的に、幅広い年代を対象としています。			
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		918	1, 202	76. 4%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		1, 202			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	競技大会	サッカー・剣道・野球・テニス・武道・ターゲットバードゴルフ大会の実施	2, 200	398	18. 1%
	スポーツ教室	初心者ソフトテニス・水中ウォーキング・正しい効果的な歩き方・ヘルスパレーボール教室の開催	800	454	56. 8%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	事業参加者数	大会・教室の参加者数	3, 000	852	28. 4%
課題・問題点	令和 4 年度についても、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部の競技大会は中止となりました。スポーツ教室については、新型コロナウイルスを注視しながらの開催となりました。				
今後の方向性・担当課の自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの各種スポーツ教室の参加者が減少しております。今後は告知方法等を工夫しながら、参加者増を図ることに取り組んでまいります。				
点検・評価委員の意見	令和 4 年度も大会・教室の参加者数が目標値に届いていない。高齢化社会において、生涯スポーツの大切さが叫ばれており、運動やスポーツに対する意欲は高まっていると思うので、各種競技大会や教室などの参加の機会を継続して設けていただきたい。				

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	美術展・芸術祭・文化祭等の開催事業		担当課	文化振興課	
第1期基本計画基本施策名		文化・芸術の推進			
事業の目的・概要		市民との協働により美術展や市民とつくる美術展等を開催することで、市民の活動の場を提供し、芸術文化の振興を図ります。			
事業コスト	令和4年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		2,654	3,664	72.4%	
	令和5年度	予算額計（千円）			
		1,669			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡市美術展の出品数	石岡市美術展の出品数	230点	218点	94.8%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡市美術展の出品者数	石岡市美術展の出品者数	200人	169人	84.5%
課題・問題点		美術展は、出品者の高齢化やコロナウイルス感染症の影響もあり、出品者・出品数が減少傾向にあります。			
今後の方向性・担当課の自己評価		芸術文化活動の担い手である市民の意見を反映した文化芸術推進条例と文化芸術推進基本計画を策定したことから、その進捗を管理しつつ、将来の世代へ地域の文化や伝統を守り育てて行けるよう、市民の自主的な芸術文化活動を支援します。			
点検・評価委員の意見		作品を広く一般の方に鑑賞してもらうことは、出品者のモチベーションや、将来の文化芸術の担い手の育成につながります。展示期間などを工夫することで、郷の風のほか本庁舎や運動公園で気軽に鑑賞できるよう、また、その情報発信を積極的に行うよう検討していただきたい。			

令和4年度事業 点検・評価表

事業名	文化・芸術関係団体への支援事業	担当課	文化振興課		
第 1 期基本計画基本施策名	文化・芸術の推進				
事業の目的・概要	市民が主体となった芸術文化活動を推進するため、石岡市文化協会や石岡アート協会等の活動を支援します。				
事業コスト	令和 4 年度	決算額計（千円）	予算額計（千円）	執行率（％）	
		1, 682	1, 770	95. 0%	
	令和 5 年度	予算額計（千円）			
		2, 270			
事業内容活動指標	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡アート協会 会員数	石岡アート協会の会員数	180人	132人	73. 3%
	石岡市文化協会 会員数	石岡市文化協会の会員数	2, 500人	2, 256人	90. 2%
最終目標達成度	名称	内容	目標値	R4実績	達成度
	石岡市文化協会 会員数	石岡市文化協会の会員数	2, 500人	2, 256人	90. 2%
課題・問題点	高齢化の進行等により芸術文化活動に取り組む人が減少していることから、市民の幅広い参加を促進する取組を進めていく必要があります。また、市民会館の閉館により、活動場所の確保が課題となっています。				
今後の方向性 ・担当課の自己評価	本市には芸術文化を愛好する団体や市民が多いことから、市民の自主的な活動の成果を発表する場の提供や機会を継続していく必要があります。また、活動場所の確保に向けて、関係機関との協議を進めます。				
点検・評価委員の 意見	アート協会、文化協会ともに会員数が減少傾向にあるが、市民主体の芸術文化活動推進のため、各種団体の活動や発表場所の確保、情報発信等を引き続きサポートし、後継者の育成につなげていただきたい。				

4. 令和4年度教育委員会の点検評価における点検・評価委員の意見に対する令和5年度の実施状況 ⇒

(1) 発掘調査事業についての意見

貴重な文化財を後世に継承していくため、文化財の重要性について、発掘の成果を示しながら開発行為者や地域の方々の理解を得ていただきたい。

また、出土遺物の適正な保存管理に向けた人員や施設の確保及び活用を進めてほしい。

(1) 発掘調査事業についての取組

発掘調査現場の公開や企画展・文化財調査報告会などを開催し、調査の重要性や成果の発信に努めていきます。

保管施設である文化財管理センターと展示施設であるふるさと歴史館の集約化の検討を含め、出土遺物を適正に保存管理できる施設の確保・機能移転及び活用を進めていきます。

(2) 文化財保護保存及び普及経費についての意見

文化財は石岡市の魅力を発信できる貴重な資源であり、文化財や発掘の成果を、多くの市民の方々に知らせ、石岡市の歴史・文化財に対する理解や関心を高めるため、ふるさと歴史館や常陸風土記の丘などの既存施設をより積極的に活用するとともに、市外から来訪する人の利便性を考えた拠点づくり等をしていただきたい。

(2) 文化財保護保存及び普及経費についての取組

令和4年度から農村資料室を八郷総合支所内へ移転したことで、アクセス・トイレ等の課題が解決され、来場者が大きく増えました。

ふるさと歴史館、常陸風土記の丘や農村資料室など既存施設での企画展の開催を継続するとともに、保管施設である文化財管理センターと展示施設の集約化あるいは機能移転について、統廃合による空き公共施設活用の検討を進め、拠点施設の確保を目指していきます。

(3) 筑波山地域ジオパーク推進事業についての意見

新たな地域資源であるジオパークについて、子どもたちの郷土愛醸成や地域の魅力発信のため、構成6市との連携を強化し、学校教育の充実やジオツーリズムによる交流人口の拡大を図りながら、日本ジオパークの再認定に向けて進めてほしい。

(3) 筑波山地域ジオパーク推進事業についての取組

前回令和2年度の日本ジオパーク再認定の際には、学校教育との連携強化が指摘事項として挙がっていましたが、構成6市や学校・関係団体等が連携し、次回の再認定に向けた課題解決の取組と事業運営ができています。

当市では、令和4年度は、一般市民向けのジオパーク講演会を開催し幅広い層へジオパークの魅力発信を行ったほか、教育の面でも市内小中学校での通常授業やふるさと学習においてジオパークの活用を増加させ、児童生徒へ地域資源の魅力発信と郷土愛の醸成を図っています。

(4) スポーツイベント事業についての意見

感染予防ガイドラインを参考に参加者の安全を確保しながら、つくばねマラソンの実施、ハーフマラソンへの移行を進めてほしい。

また、ジオパークや恋瀬川サイクリングロードなど地域資源を活用した新たなスポーツイベントを検討してほしい。

(4) スポーツイベント事業についての取組

安全性を確保しながら、当市の特色を取り入れたハーフマラソンを計画してまいります。

また、各種事業につきましても、地域資源を取り入れた魅力ある事業開催に努めてまいります。

(5) 放課後児童健全育成事業についての意見

安心して子どもを預けられる場所を引き続き提供できるよう、多様化した就労世帯の保育ニーズを的確に把握し、学校、学校統合所管課、委託業者と情報共有・連携を密にして運営に当たるとともに、学校統合や入所児童の増加の中でも、適正な人員配置や施設の確保に努めていっていただきたい。

(5) 放課後児童健全育成事業についての取組

委託業者は利用者や保護者の声を的確に把握・分析するよう努めており、支援員向けの多彩な研修や、保護者との連絡ツール（専用アプリ）の導入等を行っており、更なる質の向上に取り組んでいます。事業者とは連携を密にし、常に協議や議論を重ね、より良い保育サービスの提供に努めます。

令和5年度は統合される小学校に合わせて、保育施設不足が懸念される児童クラブについて、増築工事に着手し、令和6年4月から開所できるよう進めています。引き続き学校、委託業者と連携を密にして、児童や保護者が安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。

(6)家庭教育推進事業についての意見

コロナ禍にあって、家庭教育学級や各種講座の対面での実施が難しい中ではあるが、悩みを抱えている保護者や家庭に寄り添い、その解決の一助となるよう、時代の変化に対応した工夫・支援を継続して行っていただきたい。

(6) 家庭教育推進事業についての取組

悩みを抱えている保護者や家庭に寄り添い、その解決の一助となるよう、今年度も、就学時健康診断の際に子育て学習講座を市内全小学校において、就学児を持つ保護者に対し、家庭教育に関する情報提供や個別面談を実施予定です。

また、訪問型家庭教育支援についても、市内幼児教育施設、小・中学校の全保護者にチラシを配布、周知を図り、相談対応しております。

家庭教育学級につきましては、感染症の状況を踏まえながら、9月現在、昨年度を上回る実施となっております。

今後につきましては、乳幼児期親力アップ講座や生涯学習の集いを対面で実施検討しておりますが、感染状況を踏まえながら、感染防止策やオンラインでの開催など、時代の変化に対応した工夫・支援をしてまいります。

(7)(小学校・中学校)学校いきいきプラン推進事業についての意見

コロナ禍の影響を大きく受け、各学校で計画どおり事業実施ができなかったことと思うが、そういった中でも、次代を担う児童生徒の教育機会の確保や予算の有効活用のため、教育委員会としても情報収集に努め、学校の実態や独自性がいかされた事業内容になるよう引き続き助言、指導をし、既存事業の見直し、新規事業への積極的な予算配当を進めてほしい。

(7) (小学校・中学校)学校いきいきプラン推進事業についての取組

コロナ禍の影響下ながら、各学校において計画に基づいた活動が実施されました。引き続き適切な事業実施のための予算配当を行った上、学校の独自性がいかされたより質の高い事業内容となるよう指導をしていきます。

(8)語学指導事業についての意見

小学校での外国語学習は、中学校での学習への意欲や興味を育てる意味では重要な役割を持っており、小学校から中学校へのスムーズな接続が求められていることから、授業づくりや評価方法の研修会を通した小中連携を更に活発にしていくとともに、AETの増員など事業の拡充についても検討されたい。

(8) 語学指導事業についての取組

英語教育推進委員を対象に、指導方法や評価等に関する研修を行っています。また、「外国語科授業づくりサポート」として、本年度は小学校の英語の授業を小中学校教員が参観（年間19回実施予定）し、授業方法の共通理解や小小連携・小中連携を図っています。

A L Tは市内24校に14人（小学校7人、中学校6人、小中両方1人）おり、増員はありませんが、ブレンディッド授業（通常の授業とオンライン授業を1時間の中で行うもの）を広めることで、児童生徒の意欲や興味を高め、英語での発話量を増やすなど、言語活動の充実を図っていきます。

(9) 学校給食調理事業についての意見

コロナ禍においても食中毒や事故等がなく安全・安心な給食の提供ができしており、石岡・八郷の両給食センターの適切な施設管理や衛生管理がなされている。今後も地場産物の活用や食育指導、食物アレルギー対策を徹底し、児童生徒の健全な成長を促進して欲しい。

(9) 学校給食調理事業についての取組

衛生管理につきましては、職員の日頃の健康管理に十分注意することをはじめ、施設の管理も徹底し、事故がないよう努めております。

地場産食材の活用につきましては、旬の食材をいかした献立作りを進めるとともに、学校現場と連携しながら食に関する正しい知識や習慣が身に付けられるよう栄養教諭を橋渡しとして、食育指導に取り組んでまいります。

(10) 放課後子ども教室推進事業についての意見

民間委託を機に小学校全校で放課後子ども教室が実施され、また、目標値を上回る参加延べ人数となっており、市民サービスの向上が図れている。引き続き各校での課題を明確にし、地域協力者、学校、委託業者との十分な連絡調整をしながら、児童の安全を確保した上で事業の充実を図って欲しい。

(10) 放課後子ども教室推進事業についての取組

令和4年度は感染状況を踏まえた中止がなく、191回実施（前年度比51回増）できました。民間活力を導入したことで、情報通信技術（講師とのオンライン開催）等の利用による多様な活動プログラムが実施でき、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を涵養することができました。

令和5年度も、委託業者の事前計画に対して指導・助言し、学校の理解と地域の協力を得て、9月現在、年度当初の計画どおりに実施できております。今後も引き続き、地域協力者、学校、委託業者と緊密に連絡調整を図り、児童の安全・安心を確保した上で事業の充実に努めてまいります。

(11) 青少年相談員体制推進事業についての意見

青少年相談員による街頭巡回指導などは、非行防止、健全育成になくてはならない活動となっており、活動の維持継続のため、子どもたちの活動実態に合わせた効果的で就業している者も参加しやすい活動内容、日程となるよう見直しを行いながら、相談員の確保に努めていっていただきたい。

(11) 青少年相談員体制推進事業についての取組

青少年相談員の街頭巡回指導について、年度当初の計画どおり実施しております。その他にも、青少年の健全育成に協力を依頼する店舗訪問や相談員の資質向上を図るためのミニ研修等、意欲的に活動しております。

相談員の確保につきましては、学校や団体からPTAや生徒指導担当教員、民生委員・児童委員、相談員経験者を推薦していただき、今年度、新たな任期中で59名の相談員を委嘱しました。

活動時間につきましては、平日昼間の児童生徒の下校時間における街頭巡回指導への就業している相談員の参加は難しいですが、夜間街頭巡回指導（8月）や休日に実施する柿岡の祭礼（7月）・石岡のおまつり（9月）巡回指導に積極的に参加してもらえるよう働きかけを行いました。

今後につきましては、より多くの相談員が効果的に参加できるよう引き続き、活動内容、日程を検討してまいります。

(12) 青少年を育てる石岡市民の会等による青少年育成活動支援事業について

の意見

コロナ禍や学校統合再編による支部組織の改編も見込まれるが、次代の社会を担う子どもたちが明るく健やかに成長できるよう、各支部の課題や、地域や支部組織の規模に応じた取組について、意見交換、情報共有できる場を継続して設け、学校や地域に根差した支部活動を支援していただきたい。

(12) 青少年を育てる石岡市民の会等による青少年育成活動支援事業についての取組

次代の社会を担う子どもたちが明るく健やかに成長できるよう、今年度も対面による総会（6月）にて、活動方針を承認・確認しました。

各支部の課題や、地域や支部組織の規模に応じた取組について、意見交換、情報共有できる場としましては、本部役員・支部長会議（9月）を予定しております。また、学校統合再編に関係する支部長会議（9月）を実施し、地域の実情を踏まえて支部組織を検討していきます。

今後につきましては、地域の未来を担う子どもたちの健全な育成のために、学校や地域に根差して支部活動が継続できるよう、事務局として事業の企画・運営の補助や本部と支部との連絡・調整を図り、青少年を育てる石岡市民の会の活動を支援してまいります。

(13) 子ども会育成事業についての意見

石岡市子ども会育成連合会が解散することは大変残念だが、地域のコミュニケーションづくりを担っている部分もあるため、今後も存続する単位子ども会の会員児童の確保や事業実施に対する支援を継続していただきたい。

(13) 子ども会育成事業についての取組

令和4年度末をもって、石岡市子ども会育成連合会（石子連）が解散となりました。令和5年度からは子ども会会員の安全会加入の手続き、子ども会事業について相談や助言、また備品の貸し出し等を中心に事業を行っていきます。今後も地域の子どもの会活動を引き続き支援してまいります。

(14) 小中学校コンピュータシステム整備事業についての意見

校務用パソコンや統合型校務支援システムの導入により、児童生徒や教職員の情報の一元管理、教育委員会との情報共有がスムーズになされ、業務の効率化、教職員の負担軽減が図れている。

電子化された個人情報の外部への漏洩がないよう、セキュリティ対策には万全を期すようお願いしたい。

(14) 小中学校コンピュータシステム整備事業についての取組

統合型校務支援システムについては、セキュリティ対策の一環として閉域網での接続となっています。

また、次回の校務系システム更新に合わせ、セキュリティの強化を図ります。

(15) 学校統合再編事業についての意見

学校の統合再編に当たっては、近隣自治体の学校統合再編状況を踏まえ、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、なお一層のスピード感をもって進めてほしい。

また、統合再編が確定している枠組みにおいては、廃校となる学校施設について、庁内又は民間での利活用についても同時に検討してほしい。

(15) 学校統合再編事業についての取組

4事業の小学校統合再編について、2事業は令和6年4月に統合を行います。南小学校においては、建物改良工事に着手し、令和6年2月までには完成する見込みとなっております。残りの2事業においては、1回での統合を求める声が多く、進展していない状況です。計画の見直しを視野に、審議会を開催し、新たな方向性を模索します。

廃校となる学校施設については、庁内での利活用を確認しており、行政として利活用がないときには、民間への利活用を進めてまいります。

(16) 図書館ブックスタート事業についての意見

コロナ禍の影響によりブックスタートパックの配布のみとなっているが、お話会や読み聞かせなどに参加してもらうことで、事業の本来の目的である本を媒介として親と子の人間関係を深めたり、読書に親しむ機会の創出につながったりしていくので、各図書館のイベントについてSNSなども活用しながら情報発信し、図書館利用者の拡大につなげていっていただきたい。

(16) 図書館ブックスタート事業についての取組

ブックスタート事業につきましては、親子で読書に親しむ機会を創出するため、今年度から4か月健診のフォローアップである1歳児相談の際に読み聞かせを再開しています。

また、各図書館では、本や図書館を身近に感じてもらうため、定期的なお話会や図書館見学会、理科実験教室、上映会などのイベントを多数開催しており、市報のほか、ホームページ、メールマガジン、LINE、ツイッター、フェイスブックなどのSNSを活用してイベント情報を発信しています。

(17) 公民館の事業についての意見

令和3年度もコロナの影響を大きく受けたものと思うが、公民館利用者数、公民館講座の参加者数が目標値を大きく下回っている。他自治体の先進事例を参考に若い世代が参加したくなる講座の開設や、フリーWi-Fi等、時代のニーズに対応した環境の整備をするなど、公民館が地域交流の拠点とされるよう進めてほしい。

(17) 公民館の事業についての取組

公民館の利用者や若い世代の方々のニーズを調査するために公民館講座や就学時健康診断の際にアンケートを引き続き行っています。

アンケート内容、講座内容等を各館で共有し、公民館活動を活発にしていります。

また、講座募集要項を市報折込だけではなく、石岡市のホームページ、市公式フェイスブック・ツイッターに記事掲載を行い、若い世代にも幅広く周知を行いました。次年度以降も同様に情報発信を行ってまいります。

公民館の環境整備として、フリーWi-Fi等の導入に向け検討を行っています。

(18) スポーツ振興事業についての意見

令和3年度もコロナ禍の影響により競技大会の開催数や参加者数が目標値を大きく下回っている。

健康・体力づくりのためスポーツや運動をやりたいというニーズは高いと思うので、感染予防ガイドラインを参考に参加者の安全を確保しながら、新たな参加者の掘り起こしのため、初心者対象の種目や教室を企画し、PRを工夫するなど、少しでも参加の機会を設けていっていただきたい。

(18) スポーツ振興事業についての取組

誰でも気軽に参加できる事業の取組として、水中ウォーキング教室をはじめ、健康増進と体力づくりとして正しい歩き方教室を計画しております。

今後も、感染予防を含め安全性を確保しながら、生涯スポーツの充実に努めてまいります。

(19) 美術展・芸術祭・文化祭等の開催事業についての意見

出品の機会とともに、美術展関係者のほか一般の方に鑑賞してもらうことは、出品者のモチベーションや、幅広い市民に文化芸術を身近に感じてもらう機会となるので、郷の風に加え、開催会場・回数・期間を工夫することで、幅広い市民が気軽に文化芸術に触れあえるよう力を入れていただきたい。

(19) 美術展・芸術祭・文化祭等の開催事業についての取組

事業開催に当たっては、市報掲載やホームページ・SNS発信のほか、公共施設、近隣市町村の芸術施設や美術部等のある近隣高校などにも周知ポスターの掲出を依頼し、一般来場者の増加を図っています。

また、出品対象者への高校生の追加や、土日祝日を含めた展示会の開催、図書館「郷の本棚」利用を目的に来庁した子育て世代や若者への周知と郷の風への誘導等を図ったことで、効果が出ています。

(20) 文化・芸術関係団体への支援事業についての意見

高齢化によりアート協会、文化協会ともに会員数が減少傾向にあり、後継者の育成が課題となるが、各種団体の小中学校との連携やイベントの開催・情報発信等を引き続きサポートし、組織の維持、活動の活性化につなげていただきたい。

(20) 文化・芸術関係団体への支援事業についての取組

会員数の増加及び後継者の育成のため、文化協会の講師派遣事業について市内小中学校・高校へ文化振興課から周知しています。令和5年度は、現時点で3校において実績があり、三曲（琴・三味線・尺八）と祭囃子の実演・体験学習、管弦楽団の演奏鑑賞が実施されています。

また、芸術団体が市民を対象とする芸術家の講演会を開催できるよう、芸術団体への補助金対象事業を拡大する要綱の改正を行っています。

5. 参考資料

参考資料①

石岡市教育委員会事務局組織機構（R 5 . 4 . 1 現在）

教育長	部長	次長	参事学校 再編担当 兼学校教育 担当	指 導 室	
				学校再編推進室	
				教 育 総 務 課	小学校 19 校 中学校 5 校
				生 涯 学 習 課	中央図書館
				文 化 振 興 課	
				中 央 公 民 館	府中地区公民館 東 地区公民館 城南地区公民館 国府地区公民館
				ス ポ ー ツ 振 興 課	石岡運動公園 八郷総合運動公園 海洋センター
				学 校 給 食 課	石岡学校給食センター 八郷学校給食センター

石岡市教育事務点検・評価委員要綱

平成20年11月20日
教育委員会告示第43号

(設置)

第1条 石岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項に規定する教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行うに当たり、同条第2項の規定により教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、石岡市教育事務点検・評価委員（以下「委員」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員は、次に掲げる事項について調査を行う。

- (1) 教育委員会が行う事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項。

(委嘱)

第3条 委員は、3人以内とし、学識を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任は妨げない。

(その他)

第5条 この告示に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

発 行	令和 5 年 12 月
編 集	石岡市教育委員会 教育総務課
	〒 3 1 5 - 0 1 9 5
	茨城県石岡市柿岡 5 6 8 0 番地 1
	TEL 0 2 9 9 - 4 3 - 1 1 1 1
	FAX 0 2 9 9 - 4 3 - 1 1 1 7